

第1回 中央区高齢者孤立防止・生きがい推進懇談会 (議事録要旨・案)

日時： 平成27年4月28日(火) 午後6時30分～8時30分

場所： 中央区役所 8階 大会議室

議事次第：

- 1 開 会
- 2 委員の委嘱
- 3 区側挨拶
- 4 委員紹介
- 5 会長選出・会長挨拶
- 6 副会長選出・副会長挨拶
- 7 議 題
 - (1) 中央区高齢者の状況及び懇談会の目的
 - (2) 各委員の活動紹介等
 - (3) アンケートの概要説明
 - (4) 今後の検討の進め方及びスケジュールについて
- 8 閉 会

出席者【委員】

川村	岳人	健康科学大学健康科学部福祉心理学科准教授
高橋	恵子	聖路加国際大学研究センター准教授
鈴木	健一	中央区立敬老館統括館長
吉田	千晴	京橋おとしより相談センター管理者
八木	英之	社会福祉協議会在宅福祉サービス部推進課長
木村	和代	民生委員（京橋地域）
平賀	淳子	民生委員（日本橋地域）
立岩	絹子	民生委員（月島地域）
川端	武二	町会役員（京橋地域）
安西	暉之	町会役員（日本橋地域）
小倉	さなゑ	ほがらかサロン構成員
小川	京子	高齢者クラブ連合会役員
佐久間	保人	天空新聞製作委員会構成員
田中	武	企画部長
新治	満	区民部長
長嶋	育夫	高齢者施策推進室長

欠席者【委員】

鹿島	新吾	町会役員（月島地域）
平林	治樹	福祉保健部長

(敬称略：順不同)

配布資料：

- 資料 1 中央区高齢者孤立防止・生きがい推進懇談会設置要綱
- 資料 2 中央区高齢者孤立防止・生きがい推進懇談会委員名簿
- 資料 3 中央区高齢者孤立防止・生きがい推進懇談会傍聴事務処理要領
- 資料 4 中央区高齢者の状況
- 資料 5 中央区高齢者孤立防止・生きがい推進懇談会アンケートの概要
- 資料 6 中央区高齢者孤立防止・生きがい推進懇談会スケジュール
- 資料 7 懇談会の目的

参考資料：

- 参考資料 1 中央区高齢者保健福祉計画・第 6 期介護保険事業計画
(平成 27 年度～平成 29 年度) ※当日机上配布

次第	発言者	議事の状況又は発言内容
1 開会	高齢者福祉課長	これより第1回中央区高齢者孤立防止・生きがい推進懇談会を開催いたします。
2 委員の委嘱	高齢者福祉課長	委嘱状の交付
3 区側挨拶	高齢者施策推進室長	高齢者施策推進室長の挨拶。
4 委員紹介	高齢者福祉課長	委員の紹介。欠席委員の報告。事務局職員、業務受託者の紹介。
5 会長選出・会長挨拶	委員 会長	委員より、川村岳人委員にとの発言があり、異議なく承認。 川村会長より、就任の挨拶。
6 副会長選出・副会長挨拶	会長 副会長	会長より、高橋委員を指名、異議なく承認。 高橋副会長より、就任の挨拶。
7 議題 (1) 中央区高齢者の状況及び懇談会の目的	会長 高齢者福祉課長 会長 高齢者福祉課長 委員 会長 委員 会長 委員	議事に入ります。事務局からお願いします。 配布資料の確認。 中央区高齢者の状況（資料4）及び懇談会の目的（資料7）について、事務局及び会長から説明。 専門職との関係とはケアマネジャーなどのことか。 ケアマネジャー、ホームヘルパー、医療専門職、そういった方々との関係性のことを示している。まずはそういった方々が「場」につなげていくことが大切だが、専門職との関係性をさらに地域へと発展させない限り孤立の解消にはつながらない。 会長が高齢者の問題を知りたいと思ったきっかけは。 地域の中で極端に孤立しているケースなどを見て、何によって孤立が生まれ、どういったもので孤立が解消されるのかということに関心を持った。 社会的孤立は高齢者に限った話ではなく、若い層にもかなり広がって見られる現象だ。高齢者の社会的孤立が社会問題と認識されているのは、孤独死に注目が集まっているからだと思う。 敬老会は、男性はほんの1人か、2人、あとはみんな女性。いい知恵があったら教えてほしい。

(2) 各委員の活動紹介等

会長	男性の社会的孤立はほぼ各国で見られ、女性に比べて男性のほうが社会的に孤立しやすい。どうやって孤立を解消していくのか、皆さんと共に考えていきたい。
会長	自分が住んでいる地域の状況をお話しいただきたい。
委員	現在、中央区に敬老館（いきいき館）が3館ある。年間利用者数は3館合わせて平成23年度は7万8千人だったのが、昨年度は11万8百人、年間約5千講座を実施している。今後、民生委員の方などと連携を強化していくことで、地域でハブ的な役割を演じられるのではないかと。
委員	おとしより相談センターは、月島、日本橋、京橋の3カ所あり、中央区の高齢者の総合相談窓口になっている。要支援1、2の方のケアプランも作成している。 「埋もれている高齢者」という言葉を使うが、SOSを出せなかったり、「まだ大丈夫だから」とどこにもつながらない方々を掘り起こし、地域ケア会議で地域の方々からご意見をいただいて課題を拾い上げている。
委員	社会福祉協議会は、地域を良くしたい、地域のために何かしたいという思いに溢れた方と一緒に取り組んでいくような組織。孤立防止については、ほがらかサロン、ふれあい福祉委員会、高齢者食事サービス、介護者交流会などを実施。厳しい福祉課題を抱えた本当に孤立をしている高齢者の発見にはまだまだ至っていない。
委員	民生委員、特養のボランティア活動により、人の役に立つ幸せを実感している。いきいき館に来られない人の対応が課題である。また、おとしより相談センターの地域懇談会に出席したが、地域で起こる様々な問題に取り組んでおり頼りにしている。年老いてからではなく、若い時から自覚し、地域の中での信頼関係（絆）をお互いにつくる必要がある。
委員	ふれあい福祉委員会、見守り活動を行っている。75歳以上の高齢者に、お誕生日にお花をご自宅にお届けし、お元気かどうか確認する活動を17年間続けているが、人と人を結びつける明るいネットワークづくりができたように思う。また、平成26年から役員13人で、20人の見守りを行っている。毎月訪ねてきてくれることが生きがいとなり、元気でいられますと話してくださった。 こうした活動をする中で心配な高齢者をおとしより相談センターへ繋げることができて助かっている。

委員	<p>見守り活動と高齢者クラブの友愛活動をやらせてもらっている。いままで元気で生活していた方がふさがちとなったため、おとしより相談センターに連絡し通院を勧め、施設に入所となった。施設の皆さんによくしてもらっていると連絡があった。</p> <p>今回は同性だったので深く介入できたが異性だったらどこまで介入できるかが疑問である。</p>
委員	<p>高層マンションの自治会で新聞を作成し、現在9千部、新川と佃と月島の高層マンションに手配りしている。新聞を読んだ高齢者からいろいろな反応がある。ひとり暮らしで、自分では歩けない方からもお話を伺ったり、情報提供していただいて記事にしたり、仲間募集で掲示板のページを利用していただいたりしている。</p> <p>オートロック等で新聞を配れないマンションもある。なんとかこの新聞を通じて縦のコミュニティをつくっていきたい。</p>
委員	<p>高齢者クラブは、京橋、日本橋、月島で61団体あるが、なかなか会員が増えない。健康福祉まつりへの参加や花の種の配布等で高齢者クラブを周知しているが、趣味のサークルに入りたい方などが多く、なかなか会員が増えないことが課題である。</p>
委員	<p>ほがらかサロンは2001年10月、佃で始まった。現在日本橋、京橋、月島が増設され、全部で4カ所、定員15名、60名がマックスで、待機状態の方がいる。午前は折り紙、ゲーム等、ボランティアさんがつくったお弁当をいただいて、午後には歌、体操等、盛り沢山の活動をしている。</p> <p>このようなだれでも参加できるようなサロンがいろいろなところにできたら、孤立している高齢者が少なくなっていくのではないかと考える。</p>
委員	<p>地域の高齢者クラブとふれあい福祉委員会の活動に町会としても協力している。お節介焼きが多い地域で、行事や総会があると、町会の青年部がひとり暮らしの方を迎えにいったり行事に参加してもらおう。人思いの人がリーダーになっているところは情報網も発達するし、孤独ということがあまりないのではないか。町会とそういう組織の関わりを密にすることが大事だと思う。</p>
委員	<p>町会で盆踊り、餅つき大会など活発に活動している。町会役員の中には、役割（仕事）が与えられることにより、自分の価値を見出すことができ元気になる人もいる。</p> <p>最近地域に入ってきた方の中には、せっかく隣近所の煩わしい付き合いを避けて都心のマンションに引っ越したのだから町会に</p>

入りたくないという人もいるが、行事等でなんとか町会に溶け込ませたいと思っている。

副会長

聖路加健康ナビスポット「るかなび」は、自分の健康は自分で守るということで2004年に立ち上げ、11年目を迎えたところ。昨年度は3千人ほどが利用し、60代から70代が最も多くなっている。主に健康相談というかたちだが、イベントがあったほうが来やすいということで、市民向けの健康講座、コンサートティーサロンなどをやっている。

高齢者には「今日行くところがある」、「今日用事がある」ということが元気になるのだということを、高齢者の方から教えていただいた。そのキーワードをもとに、懇談会で一緒に考えていければよいと思う。

会長

他県で企業などから本来廃棄される予定の食品や一般の人から食品を寄付してもらい、生活に困窮されている方に送るというNPO法人の活動に携わっている。農作業が非常に孤立防止にいいなと思う点は、行けば必ず役割があることだ。高齢の男性や女性も何らかの役割があって、互いにそれを認め合うような関係ができていく。ここでの取り組みは地域にあった資源を組み合わせつつくっている。耕作放棄地、農業の指導をするスタッフ、農業の達人も農業を教えることで役割が生み出されている。参加する市民や学生のボランティアも地域の資源。つまりいろいろな資源を組み合わせつつくっているということがこの実践から言えるのではないかと思う。

地域福祉活動というのは地域特性に合ったものでなければ意味がない。その地域にあった社会資源をいかに組み合わせるか、ここに知恵を絞ると、場がどんどん豊富になっていくのではないかと思う。

今日のお話を伺って、皆さんの問題意識、ノウハウを共有すれば、今まで以上に中央区の中で居場所が豊かになって、孤立をする人が減り、多くの方が生きがいを持てるようになるのではないかと感じた。

この懇談会は、区が政策形成を行う上で、普段地域で活動されている皆さんの声をざっくばらんに伺うための集まりという位置づけだ。毎回テーマを決めて皆さまからご意見をいただくという形式で進んでいくことになるので、ぜひ忌憚のないご意見を頂戴できればと思う。制約がある中でどうやったら現状が良くなるか、

(3) アンケートの概要説明

会長
高齢者福祉課長

行政と区民が対等なパートナーとして、お互いが認め合って話し合っていく。そんな建設的な場にできるのではないかと思っている。

「アンケートの概要説明」について、事務局からお願いします。アンケートの概要について、資料5に基づき説明。

会長

社会に起きている様々な問題は、最初に正確に把握するところから解決が始まるといわれている。どの程度孤立をしている方がいるか、どのような生きがいを持っているか、どういった方が孤立しやすいか、区民はどういった施策、どういった場を必要としているのか、アンケートから明らかになるのではないかと思う。

(4) 今後の検討の進め方及びスケジュールについて

会長
高齢者福祉課長

今後の検討の進め方及びスケジュールについて、事務局から説明をお願いします。

今後の検討の進め方及びスケジュールについて、資料6に基づき説明。

8 閉会

会長
高齢者福祉課長

本日の議事はこれで終了としたいと思います。次回の開催日、開催日程等、事務局からお願いします。

今回は6月4日木曜日 18:30～となる。開催通知と議事資料は今回同様1週間前までには送付させていただきたい。

委員の皆さまの所属団体や活動チラシを出入口の近くに置いてありますので、ぜひお持ち帰りいただき、ご自分の所属団体や活動先でご配布いただければと思う。また今後もこのようなチラシ、お知らせしたい内容などあれば、当日お持ちいただいて配布したい。